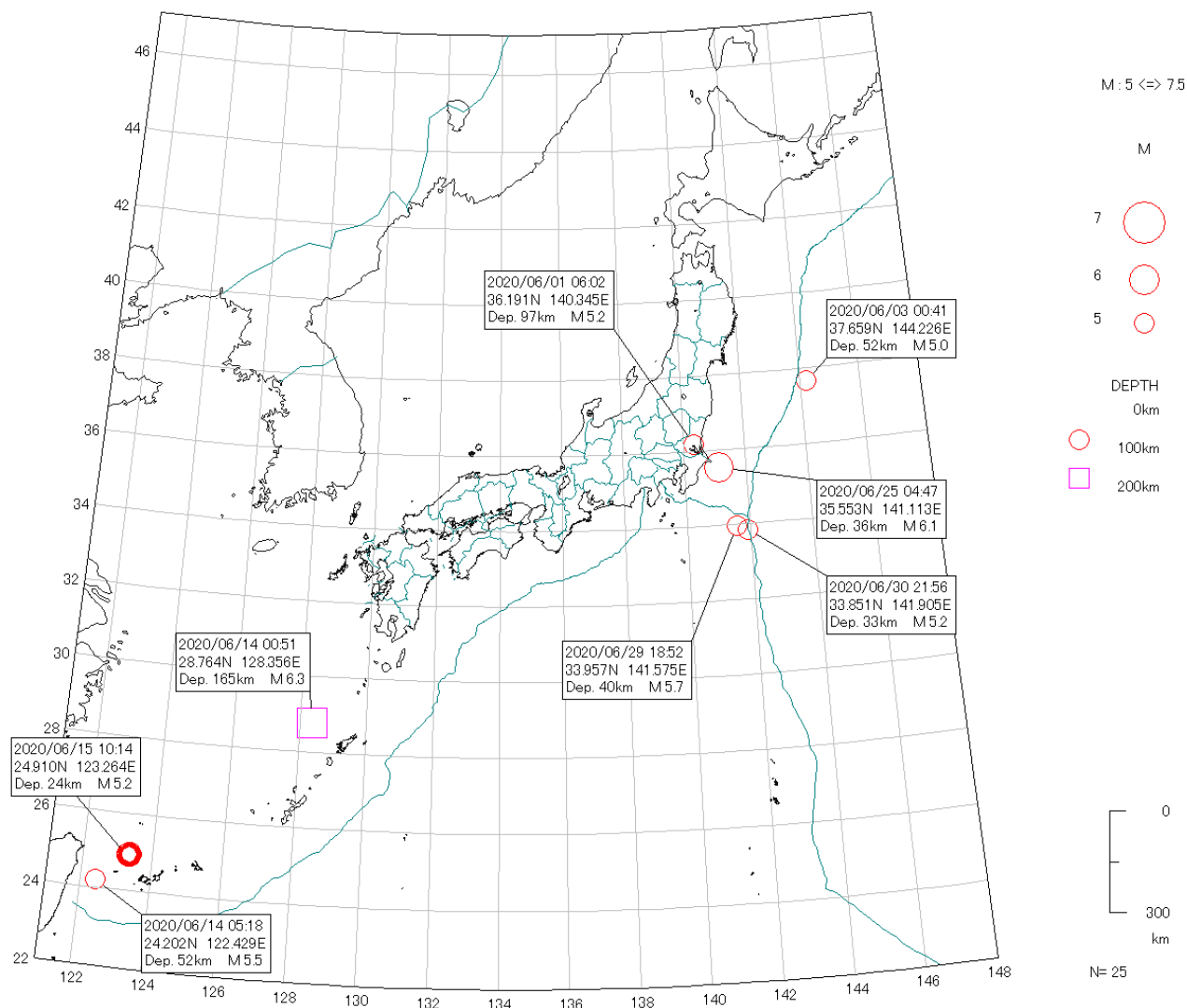


2020年6月の地震活動概観

6月は25日に房総半島沖で東日本大震災直後を除き、およそ8年ぶりにマグニチュード6を超える地震が発生しました。マグニチュード5と6では、地震のエネルギーは約32倍違います。その意味では極めて珍しい地震発生であったと言えると思います。

6月には日本列島およびその周辺海域でマグニチュード5を超える地震は25個発生しました。そのうちの大部分は南西諸島の与那国島北東地域で6月14日以降発生したものです。この地域では20個のマグニチュード5以上の地震がまとまって発生していました。このまとまった活動の引き金となったのは、14日に奄美大島北西で発生した深発地震(図中で□で表示)とも考えられます。奄美大島北西でこのような規模の地震の発生は1965年9月に一度あるだけで、極めて珍しい地震が発生したと言えると思います。

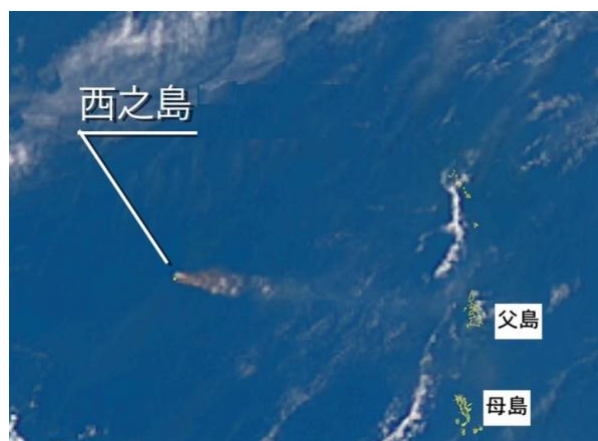
2020 6/1 0:0 — 2020 6/30 23:59



西之島の噴火活動極めて活発に

父島の西方約 130kmに位置する西之島は、2013年以降、活発な噴火を続けています。6月中旬以降、大量の火山灰を噴出するなど、特に活動が活発化しており、7月4日には観測史上最高の8,300mという噴煙高度を観測しました。

気象庁では風向き等の条件により父島周辺に降灰が予想される場合には降灰予報を発表するそうです。また、噴煙高度が10,000mに達するような場合には、航空機の運行への影響も考えられる状況です。



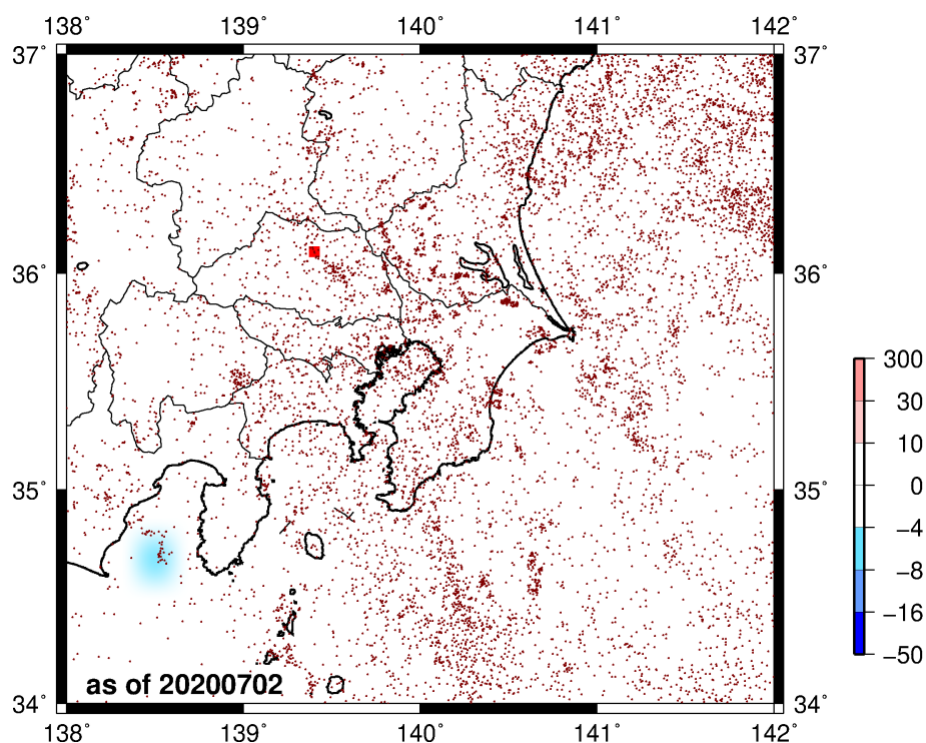
気象衛星「ひまわり」の画像



西之島の状況(海上保安庁)

首都圏の地下天気図®

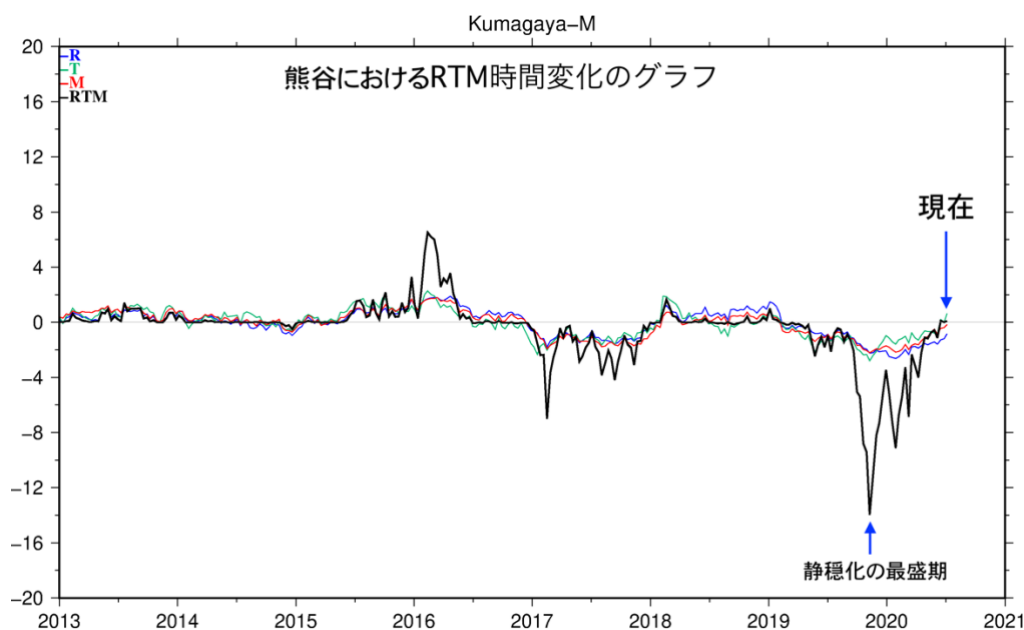
5月25日のニュースレターに続き、7月2日時点の首都圏に特化した地下天気図です。5月25日にもお伝えしましたが、現在首都圏の地下天気図では異常はほとんど出現していません。



ここで注意して頂きたいのは、現在の「異常が無い」状態は、静穏化が消えた後の状態という事です。

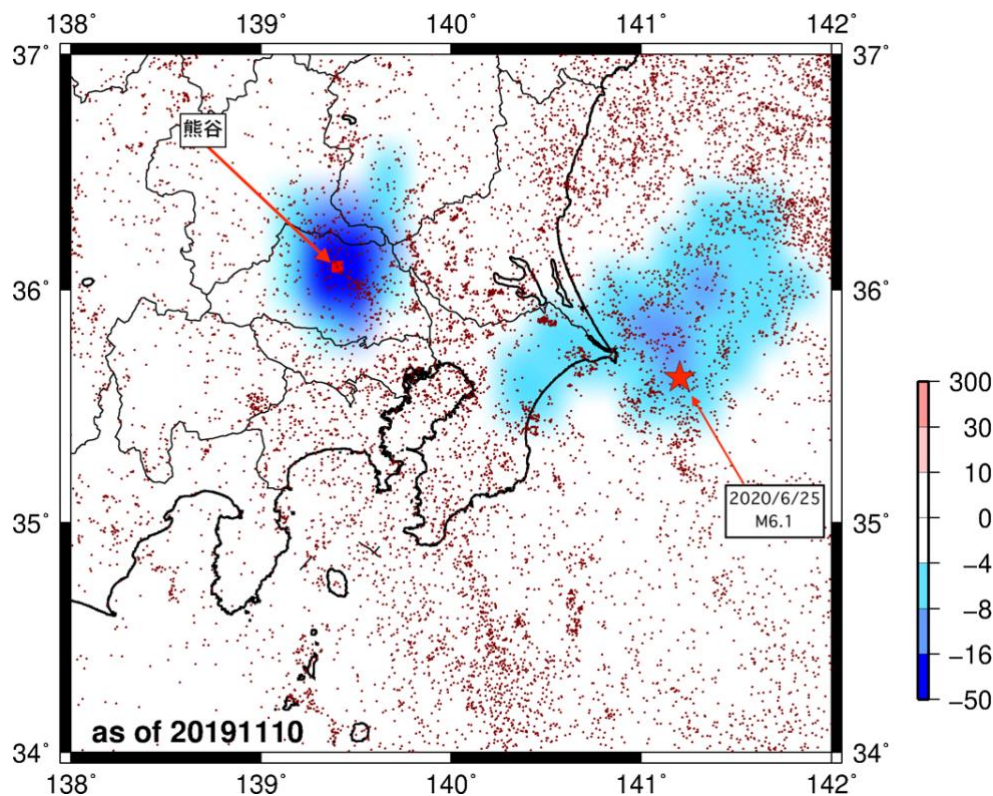


図中の■は埼玉県熊谷です。この熊谷における地下天気図の時間変化グラフは次のようになっています。



このグラフから静穏化の最盛期は2019年11月上旬であった事がわかりました。次にお示しするのはその**最盛期の11月10日時点のMタイプ地下天気図**です。ちなみに房総半島沖の静穏化に対応する地震は6月25日に発生したマグニチュード6.1が対応する可能性が高いと考えています。

地下天気図解析から言える事は、今後4-5ヶ月以内に埼玉県を中心とする地域でマグニチュード6クラスの地震発生の可能性が存在すると言う事です。なお地震は異常の中心で発生するとは限らず、異常の周辺部で発生する事例も多い事が過去の経験則から判明しています。



静穏化が最大であった昨年11月10日時点のMタイプ地下天気図